

# 動力耕耘機利用状況調査 第2報 耕耘費用の一考察

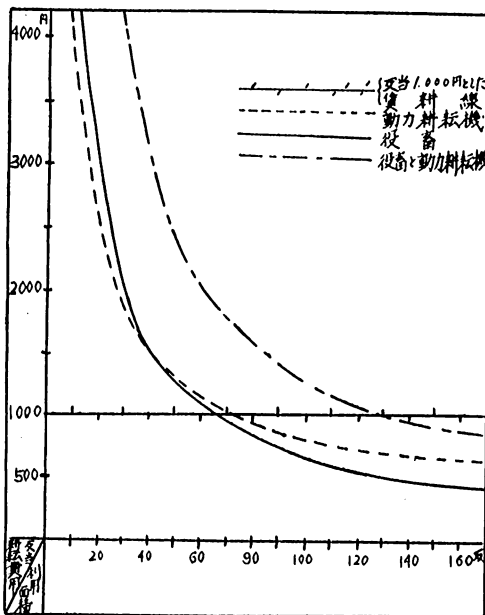
非手上 孝\*・日野 亮\*・斎藤 中也\*

IDEUR, T., HINO, R. & SAITO, C. On Cost of Garden Tractor

1. はしがき 我々は、さきに第1報として、熊本県における動力耕耘機の普及、利用の概況について述べたが、最近においても動力耕耘機の導入は日まじに増加し、利用の増大にともなつて、耕耘機利用農家における役畜の排除が見られるにいたつている。

この調査は技術と経済の両面より、如何に合理的に利用すべきかの問題解明の出発点として、まづ動力耕耘機の利用を耕耘費用中心として、役畜の耕耘費用とを対比しつゝ、熊本県八代郡昭和村における農家の実態に基づき分析検討したものである。

第1図 利用型態別反当耕耘費用



\*九州農業試験場

2. 成績の概要 1) 動力耕耘機はその管理には労力を要せず、作業能率が大きく、確土が小さく出来て後作業が行い易いが、その利用は圃場条件に左右されることが大きく、また作物の管理作業に利用することが困難である。

2) 役畜は動力耕耘機と反対にその飼養管理に多大の労力を要し、作業能率は耕耘機より小さく、確土に大きな労力を必要とするが、その利用は圃場条件に左右されること少なく、作物の管理作業等利用面が多い。

3) 本村においては耕耘機と役畜との手間替が行われているが、このような利用もお互の得失をうめ合せる1方策として良い方法であらう。

4) これ等の耕耘費用の内、維持費については、耕耘機が役畜より、本例においては約14,000円余り安く、維持費の内耕耘機では償却費が最も大きく約78%をしめ、役畜では飼料費が最も大きく約50%、次に飼養労働費が30%をしめている。

また、変動費については、役畜が耕耘機より安く、本例では約1/3にすぎない。変動費中役畜はその大部分が労働費であるのに対し、耕耘機では燃料費、修理費が大きく、労働費は変動費中約17%にすぎない。

5) 反当耕耘費用については、第1図に見られるように、何れも利用面積が増大するにつれて逡減して行くが、55反位までは維持費の安い耕耘機が安い、それ以上の面積になると変動費の安い役畜が安くなる。

また、賃耕費を反当1,000円とした場合は役畜で65反、耕耘機で70反以上の利用面積がなければ、何れも賃耕費が安くなる。

6) 現在の段階において、耕耘機の耕耘費用を安くするための手段としては、先づ丈夫な機械を求め、使用管理を丁寧に行い、耐用年数を延長すると共に修理費の節減を計り、また栽培様式及び利用方法を工夫することによつて、利用面積の拡充を計ることが重要な問題と思われる。